

島根大学医学部内科学講座内科学第四医局報

道



～令和4年春号～



やくも運転開始50周年を記念した国鉄色の車両(出雲市駅にて)

『道』

この道を行けば
どうなるものか
危ぶむ無かれ
危ぶめば道はなし
踏み出せば
その一足が道となり
その一足が道となる
迷わず行けよ
行けばわかるさ

～ タイトル『道』の由来について ～

『道』というタイトルの詩…。元々は、一休禅師の言葉だといわれていますが、一般にはアントニオ猪木が引退セレモニーのリング上で、ファンに送った最後のメッセージとして知られています。

田邊教授は、何か新しいことにチャレンジするとき、いつもこの詩を思い浮かべ、そして新しい道を切り開かんとする若者に、この詩を贈ってきたそうです。

島根大学医学部内科学講座第四も、常に前向きにチャレンジすることを忘れず、ただひたすらに医師としての『道』を進んでいこう…そういう想いを込めて、この『道』というタイトルを選びました。

内科学第四医局員・学内同門名簿

(2022年5月現在)

◆内科学第四

田邊 一明 (医学部附属病院副院長、教授・循環器内科診療科長)

◆循環器内科

遠藤 昭博 (准教授・副診療科長)

渡邊 伸英 (助教・医局長)

佐藤 寛大 (助教)

Minneapolis Heart Institute Foundation 留学中

大内 武 (助教・外来医長)

香川 雄三 (助教・病棟医長)

山口 一人 (助教)

川原 洋 (医員)

大嶋 丈史 (医員)

森田 祐介 (医員)

坂本 考弘 (医員)

山崎 誠太 (医員)

川波 由佳 (医員)

河野 由依 (医員)

(学外)

浅沼 俊彦 (島根大学客員教授)

岡田 大司 (神戸市立医療センター中央市民病院)

中村 琢 (松江市立病院)

松田 紘治 (松江市立病院)

岡崎 浩一 (済生会江津総合病院)

黒田 紘章 (益田赤十字病院)

山口 直人 (松江市立病院)

三浦 重禎 (浜田医療センター)

安田 優 (札幌心臓血管クリニック)

石倉 正大 (神戸市立医療センター中央市民病院)

古志野海人 (益田赤十字病院)

吉岡さゆり (心臓血管研究所付属病院)

田邊 淳也 (大阪大学)

山口まどか (島根県立中央病院)

佐々木拓志 (済生会江津総合病院)

村上 慧 (島根県立中央病院)

◆留学生

Haque Rakibul (バングラディシュ)

Rasel Miah (バングラディシュ)

Islam Md, Tariqul (バングラディシュ)

◆腎臓内科

伊藤 孝史 (ワーキング・イノベーションセンター准教授、診療科長)

江川 雅博 (助教)

福永 昇平 (助教)

芦村 龍一 (医員)

園田 裕隆 (医員)

星野 祐輝 (医員)

糸賀 健一 (医員)

(学外)

松井 浩輔 (出雲市民病院)

岡 朋大 (平成記念病院)

花田 健 (松江赤十字病院)

花田 昌也 (花田クリニック)

中西 宣太 (のぐち内科クリニック)

吉金かおり (おおつかクリニック)

岩下 裕 (浜田医療センター)

加藤 志帆 (益田赤十字病院)

山内明日香 (近江八幡市立総合医療センター)

岩下 裕子 (浜田医療センター)

佐藤 陽隆 (島根県立中央病院)

高瀬健太郎 (島根県立中央病院)

川西未波留 (浜田医療センター)

大庭 雅史 (松江赤十字病院)

亀井 史佳 (松江赤十字病院)

◆内科学第四資料室

影山久美子

武田 瞳

大國 視子

佐藤詩絵里

◆総合医療学講座

高橋 伸幸 (教授・大田総合医育成センター)

◆検査部

吉富 裕之 (助教)

◆救命救急センター

小谷 暢啓 (講師)





「飲まなくなつて会えるけど、そういうことじゃないんだよ」と、閉まった飲食店に掲示してあったポスターの言葉です。響く言葉に足を止めて、気がつけばコロナ禍の2年が過ぎました。2022年3月の日本循環器学会は完全WEB開催でしたが、4月以降の全国学会は集合型に舵が切られ、オンラインから飛び出して再会を祝う雰囲気になってきています。現在、私たちはCOVID-19に対して効果的なワクチンを手にし、重症者に提供できる治療薬も複数存在します。感染者が増えれば必ず重症者は増加するのがこれまでのパターンでしたが、重症者を増やさない戦略を想定することもできるようになりました。欧米ではコロナ感染症に対しては「あえてガードを下げる」作戦のようで、今そこにある問題はウクライナ情勢です。現実世界に目を背けることなく、旅をして、会って飲む（飲まれない方とも）交流ができる新年度となることを願っています。

循環器内科は、新年度に天理よろづ相談所病院循環器内科から山崎誠太先生（島根大学2015年卒）、専攻医1年目の河野由依先生（島根大学2020年卒）を迎えました。山崎先生は益田市出身で、石倉正大先生、古志野海人先生と同期であり、循環器専門医も取得されています。即戦力として期待しています。河野先生は同門の波多野淳先生のお嬢様です。よい経験を積み重ねていってください。また、札幌心臓血管クリニックで冠動脈治療の修行をしてきた森田祐介先生が帰局されました。ご指導いただいた同門・鹿島由史先生より森田先生の成長には最大級のお墨付きをいただいております、頼りにしています。

4月から森田先生と交代で安田優先生に札幌心臓血管クリニックへ修行にいただきました。内科専攻医3年目を終了した田邊淳也先生には大阪大学循環器内科の重症心不全・移植専攻医育成プログラムに加わっていただきました。心臓移植の適応とならない患者に人工心臓を移植する

destination therapy (DT) が保険償還されるなど、多様化する重症心不全治療を学んでいただきます。内科専門医プログラムの連携施設研修として、入局2年目の佐々木拓志先生に済生会江津総合病院、村上慧先生に島根県立中央病院に赴任していただきました。また、特定職員（事務）として佐藤詩絵里さんに加わっていただきました。佐藤さんは同門会長・佐藤秀俊先生のお嬢様です。今年度も学内・学外が一致団結して地域に信頼され、貢献できるよう努力を続けてまいります。



岡山医療センター・松原先生と肺高血圧症の勉強会



小児循環器の先生方と成人先天性心疾患カンファレンスを
1回/月で始めました

2021年10月に「島根県循環器病対策推進計画」を発表し、今年度は本格的に始動することになります。島根県と協力して様々な機会を捉えて啓発活動を行っていきたいと考えています。島根大学医学部としましては、島根県内の腎臓内科、膠原病内科の専門医の充足のために、それぞれの診療科のさらなる人員の増加が必要と判断し、教授ポストの設置が決まりました。すでに選考が始まっており、内科学第四としましても重要な年となります。

私（田邊）としましては、2021年度から日本内科学会中国支部支部長を拝命しておりますが、2022年度は日本循環器学会中国支部支部長の重責も担うこととなりました。任期中に定年を迎えない年齢などもありましたが、野球でいえば次の本格派につなぐ中継ぎ投手、サッカーであればオシム監督が言っておられたしっかりとボールをつなぐ「水

を運ぶ人」も重要な役割です。私一人でできることではありません。任期を全うできますようご協力をお願いします。医局では「一隅を照らす これ即ち国宝なり」という



言葉に導かれてここまで来ました。「人材こそ宝」の考えのもと、世界に通用する人材育成を行っていく所存です。今年度もご指導よろしくお願い申し上げます。



医局報 ~春号~ に寄せて



令和4年4月1日、新型コロナウイルス感染症に対する緊急事態宣言は解除されていますが、徐々に感染者数が増加し始めた中で新年度が始まりました。各学会でも徐々にハイブリッド開催から現地開催へシフトしてきていますが、感染拡大のないように注意しながら活動して行きたいと思い、新年度を迎えました。

まず始めに、いつも支えていただいています内科学第四の諸先生方、島根大学医学部・医学部附属病院の諸先生方、そして出雲市内、島根県内、山陰地方、全国の諸先生方に心より御礼申し上げます。

今年度も新入局がありました。令和2年度、島根大学卒業の糸賀健一先生です。昨年の亀井史華先生に続き、2年間の松江赤十字病院での初期研修の後、腎臓内科を選んでくれました。2年連続で入局者があり、さらに勢いがついて、嬉しい限りです。今後ともご指導賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

それでは、例年の如く令和4年度の腎臓内科の体制を紹介させていただきます。

腎臓内科 診療科長・診療教授
ワーキング・イノベーションセンター 准教授・センター長
血液浄化治療部長
伊藤 孝史

①島根大学医学部附属病院：江川雅博先生、福永昇平先生、園田裕隆先生に昨年度から引き続き頑張ってくださいます。大阪大学で3年間、猪俣善隆教授、山本陵平准教授のご指導をいただき勉強してきた芦村龍一先生と浜田医療センターで1年間研修をした星野祐輝先生が大学病院に復帰され、新入局の糸賀健一先生を加えて昨年度同様総勢7名でスタートしました。また、血液浄化治療部の業務においても、昨年度同様、泌尿器科の協力のもと当科が中心となって業務を行っていきます。内シャント手術やシャントPTA入院に関しても、引き続き当科で診ていきます。腎移植に関しても、泌尿器科が中心隣、大学全体がチームとなって関わって行きます。みんな一丸となって診療・研究、研修医の先生・学生の教育を頑張っていきたいと思います。

②島根県立中央病院：佐藤陽隆先生、高瀬健太郎先生には今年度も継続して頑張ってくださいます。2人の若い力で、初期研修医の先生に腎臓病学の楽しさを伝えていただき、新入局につなげていただければと思います。

③松江赤十字病院：長年膠原病・腎臓内科を支えてくださっていた漆谷義徳先生が退官され、腎臓内科として独立をしました。花田健先生が部長に就任しています。益々のご活躍を期待しています。そして、島根大学から大庭雅史先生と亀井史佳先生に赴任していただき、3名体制で頑張ってくださいます。引き続き初期研修医の先生に腎臓病学の楽しさを伝えていただき、新入局につなげていただければと思います。

④**国立病院機構浜田医療センター**：岩下裕先生、岩下裕子先生には継続して頑張ってください。そして、大学から腎臓専門医、透析専門医の資格を持つ川西未波留先生に赴任していただきました。鳥根県西部の拠点病院として色々なことに取り組んでいて、業務量が増えているようですが、3人で力を合わせて頑張ってください、初期研修医の先生に腎臓病学の楽しさを伝えていただき、新入局につなげていただければと思います。

⑤**陶朋会平成記念病院**：岡朋大先生に今年度も継続して頑張ってください。引き続き、東部地区の腎疾患・透析の後方支援、さらには雲南・奥出雲・飯南地区の砦として頑張ってくださいと思います。

⑥**出雲医療生活協同組合 出雲市民病院**：引き続き、松井浩輔先生に頑張ってください。また、大学病院でのバスキュラーアクセス関連の手術に協力医として従事していただき、ご指導いただきます。引き続き、腎臓病領域の大学病院や県立中央病院の後方支援病院として、ご支援いただければと思います。

⑦**おおつかクリニック**：引き続き、吉金かおり先生に頑張ってくださいますが、現在育児休暇中です。

以上が鳥根県内の常勤医師派遣状況です。

県外で勤務されている先生は1名です。

①**中西宣太先生**：今年度から倉吉市にある「のぐち内科クリニック」で勤務されます。今までの経験を活かして、頑張ってくださいと思います。

鳥根県内の腎臓病医療に関しましても、十分とは言えませんが引き続き支援できるような体制を築いていきたいと考えております。

①松江地区

・**松江生協病院**：引き続き月曜日の透析・午後外来、水曜日の透析、金曜日の午前外来を担当させていただきます。

②出雲地区

・**出雲市民病院**：水曜日に透析を担当させていただきます。
・**おおつかクリニック**：火曜日の午後に透析を担当させていただきます。

③雲南地区

・**平成記念病院**：隔週水曜日の午後に腎臓内科外来、毎週水曜日に宿直を担当させていただきます。

④大田地区

・**大田市立病院**：火曜日の午前に腎臓内科外来を担当させていただきます。

⑤江津地区

・**済生会江津総合病院**：毎週月曜日に腎臓内科外来を、水曜日には透析管理を担当させていただきます。

⑥益田地区

・**益田地域医療センター医師会病院**：毎週月曜日に外来・透析を担当させていただきます。

・**益田赤十字病院**：加藤志帆先生が総合内科を担当されます。

臨床研究面では、日本腎臓学会が主導している前向き研究にも継続して症例登録を行っており、その研究からはいくつかの論文が採択されています。また、「慢性腎臓病患者の腎アウトカムに対する酢酸亜鉛水和物製剤のランダム化多施設共同研究」にも参加することが決定いたしました。今後は大阪大学で疫学研究について学んできた芦村龍一先生を中心に、鳥根県からデータを発信して行きたいと考えています。

厚生労働科学研究費補助金（腎疾患政策研究事業）の「慢性腎臓病（CKD）に対する全国での普及啓発の推進、地域における診療連携体制構築を介した医療への貢献」の研究代表者とし3年間活動させていただき、終了しました。厚生労働行政推進調査事業（腎疾患政策研究事業）の「腎疾患対策検討会報告書に基づく対策の進捗管理および新たな対策の提言に資するエビデンス構築班」（研究代表者：川崎医科大学 柏原直樹教授）の「普及・啓発」の研究分担者、厚生労働科学研究費補助金（腎疾患政策研究事業）の「腎疾患対策検討会報告書に基づく慢性腎臓病（CKD）対策に資する研究」（研究代表者：埼玉医科大学 岡田浩一教授）の研究分担者として活動させていただくことになり、引き続き全国・鳥根県の行政関係の方々とCKDの普及啓発、診療連携体制の構築に尽力したいと思います。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、対面での市民公開講座やイベントは実施しにくい状況ですので、昨年度同様、CKD啓発動画を2種類（CKD啓発動画シリーズ第3話「早期受診で子供たちの腎臓を守ろう！」、CKD啓発動画シリーズ第4話「もしものことがあった場合 臓器提供という選択」）作成しましたので、NPO法人日本腎臓病協会のHP（<https://j-ka.or.jp/ckd/download/>）からダウンロードして、ご利用いただければ幸いです。これらのCKD対策の活動に関して、令和4年4月15～17日に京都で開催された第119回日本内科学会総会・講演会の教育講演「慢性腎臓病（CKD）対策における地域連携・多職種連携」で発表するという貴重な機会を与えていただきました。ロームシアター京都のメインホールと舞台の素晴らしさに圧倒されましたが、非常に貴重な経験をさせていただきました。ありがとうございました。



基礎研究面では、福永昇平先生が本学解剖学講座（発生物学）でコツコツ研究を継続しています。慢性腎臓病（CKD）の危険因子の一つとして糸球体数が少ないことがあり、一方in vitroにおいてRetinoic acid（RA）を添加することで糸球体数が増加するという報告があることから、マウスの母体にRAを投与し糸球体数が増加するかを検討した結果、適切な時期にRAを投与することでin vivoでも糸球体数が増加することを世界で初めて明らかにし、Biochemistry and Biophysics ReportsにAdministration of retinoic acid to pregnant mice increases the number of fetal mouse glomeruliを発表することができました。福永先生の努力に敬意を表するとともに、さらなる研究の発展を支援していきたいと思ひます。また、江川雅博先生は昨年度に引き続き病態病理学教室の大原浩貴先生の御高配により厚生労働科学研究費補助金「研究活動スタート支援」で、研究を継続しています。引き続き、基礎医学講座の先生方とも共同研究を進めていければと考えています。

一般住民の方々に対しても、慢性腎臓病（CKD）の普及・啓発に力を入れていきたいと考えています。令和3年度の世界腎臓デー（毎年3月の第2木曜日）イベントも新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け中止になりました

たが、出雲市役所に懸垂幕を掲揚していただきました。さらに、島根県内8市11町村にロールアップバナーを配布し、世界腎臓デーに合わせて掲示していただきました。今年度こそ例年通り市民公開講座、世界腎臓デーイベントを行いたいと考えております。引き続き島根県のみならず、全国のCKD対策に貢献していきたいと考えています。

最後になりますが、我々島根大学腎臓内科は学内のみならず、学外（島根県内、山陰地方、全国）でも腎臓病診療・啓発、教育・研究に精進して参ります。島根大学腎臓内科の仲間と「縁」を結んでいただいている先生方におかれましては、今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



新入医局員 挨拶



循環器内科 山崎 誠太

この春から島根大学循環器内科に入局させて頂きました、山崎誠太と申します。34期卒業で医師8年目（石倉先生、古志野先生と同期）になります。出身は益田市で大学卒業後は奈良県にある天理よろづ相談所病院で初期研修、後期研修を行いました。そのまま循環器内科医員として2年勤め、本年度から島根に戻ってきました。地元で働けることに喜びを感じつつも、出雲弁と電子カルテの使い方にまだ慣れず、悪戦苦闘する日々です。また皆様のお力になれるよう、日々精進してまいります。今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。



循環器内科 河野 由依

この春から循環器内科に入局させていただきました河野由依と申します。2020年に島根大学を卒業し、初期研修2年間を浜田医療センターでおこない、3年目より島根大学に戻ってまいりました。知識不足を感じる毎日で、不安や焦りを感じることも多いですが、医局員の先生方に丁寧にご指導いただきやりがいのある毎日をご過ごさせていただいております。一步一步成長できるように日々精進してまいりますので、今後とも御指導御鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



腎臓内科 糸賀 健一

今年度より腎臓内科に入局させていただきました糸賀健一と申します。大学卒業後は生まれ育った地元の松江赤十字病院で初期研修を行い、今年の4月から島根大学に戻ってまいりました。まだ不慣れなことが多く、知識不足を痛感させられ、大変なところもありますが、先輩の方々から熱心にご指導いただき充実した日々を送っております。今後は腎臓内科専門医を目指して精進してまいりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

国内留学終了報告

腎臓内科 芦村 龍一



2019年4月から2022年3月までの3年間、大阪府吹田市にあります大阪大学腎臓内科に国内留学させていただきましたので、その報告をさせていただきます。大阪大学腎臓内科では、「Autophagy」、「CKD-MBD」、「免疫・補体」の3つの基礎研究グループと、「疫学」、「腎疾患臓器連関制御学」の2つの臨床研究グループがあり、私は臨床研究を学ぶ目的で「疫学」グループに配属させていただきました。疫学グループのリーダーである山本陵平先生は、腎臓内科医でありながらも統計学や情報工学に精通し、腎臓領域の多数のガイドライン作成にも携わっておられます。

疫学グループでは、疫学の基礎を学び、疫学論文を批判的に読む技術を身につけるための勉強会、Clinical Journal Clubを週に1回開催しています。この勉強会では、臨床研究や統計の書籍をグループのメンバーが持ち回りで1章ずつレクチャーを行うことで、疫学や統計学の基礎知識を身につけていきます。さらにreview processがオンライン公開されているBritish Medical Journalに掲載された論文を取り上げ、reviewerとauthorのやり取りを追体験することで、reviewerの視点から論文を批判的に読む訓練を行っています。今まで読み飛ばしていた論文のmethodsやstatisticsの重要性を再認識するとともに、この勉強会で学んだことを自身が論文を執筆する際に生かしております。また、山本陵平先生を中心に、年2回、若手腎臓内科医のための臨床研究セミナーを開催しています。本セミナーでは、実践的な知識を身につける講義と、統計パッケージ「Stata」を用いた実践的な演習を1日に凝縮して行っており、多数の臨床医の先生が参加されています。しかし、新型コロナウイルス感染症により2019年8月を最後に開催は見合わせとなったため、私も1度しか参加できず、貴重な勉強の機会を失い残念でした。

私は、この3年間で2つのコホート研究に携わりました。1つは、塩野義健康保険組合加入者の健康診断結果を活用した約500人規模のコホート研究で、健診データを用いて生活習慣が高血圧症や腎臓病に与える影響について検討を行いました。その結果、飲酒は食塩摂取量が血圧やアルブミ

ンに与える影響を増強することを明らかにしました [1, 2]。もう1つは、大阪府寝屋川市の国民健康保険と後期高齢者医療制度の被保険者のレセプトデータ、健診データ、介護データによって構築される国保データベースを活用した約20万人規模の大規模コホート研究です。本研究では、健康診断未受診者は末期腎不全のハイリスク集団であり、特に健康診断でも医療機関でも腎臓の検査を受けていない高齢男性は末期腎不全のリスクが高いことを明らかにしました [3]。透析患者の増加は医療費増大の一因であり、各市町村は新規透析患者の減少を目標に掲げ発症予防に取り組んでいます。本研究結果より、健診受診の末期腎不全予防に対する有効性が示唆されました。本研究結果は、読売新聞にも取り上げていただきました。



2021年11月4日読売新聞夕刊に
研究成果が掲載されました

今回の留学の機会をいただきました田邊教授、伊藤診療科長をはじめ、学内の先生、同門の先生に感謝申し上げます。この留学で得た知識や技術を生かし、島根大学でも臨床研究を継続していきたく思います。出雲市は2017年度よりCKD重症化予防事業を開始しており、末期腎不全の予防に積極的に取り組んでいます。市町村が保有するリアルワールドデータを臨床研究に用いることで、最終的には市町村の医療政策への提言を目指した臨床研究を行いたいと考えております。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

参考文献

1. Yoshimura R, et al. Drinking frequency modifies an association between salt intake and blood pressure: A cohort study. J Clin Hypertens. 2020; 22 (4): 649-655.
2. Yoshimura R, et al. Frequency of alcohol drinking modifies the association between salt intake and albuminuria: a 1-year observational study. Hypertens Res. 2020; 43 (11): 1249-1256.
3. Yoshimura R, et al. Associations of kidney tests at medical facilities and health checkups with incidence of end-stage kidney disease: a retrospective cohort study. Sci Rep. 2021; 11 (1): 20717.



2019年8月4日若手腎臓内科医のための臨床研究セミナーにて 前列真ん中の山本陵平先生と後列右から2番目が芦村



国内留学報告

神戸市立医療センター中央市民病院

循環器内科 石倉 正大



皆様ご無沙汰しております。2017年入局の石倉正大と申します。神戸市立医療センター中央市民病院での研修報告をさせていただきます。

まずは自己紹介がてらにこれまでを少し振り返って書かせていただきます。内科学第四に入局させていただいてから早5年が経ちました。同期入局には古志野先生がおり、今年度からは大学の同期卒業である山崎先生も仲間に加わりました。まだ初々しさが残っている入局時の写真も載せておきます(写真1)。またいつの日か3人で写真が撮れる日を心待ちにしております。昨年度は揃って、循環器内科専門医試験にも合格することができ、1つ目標が達成で

きたことを嬉しく思います。

前置きが長くなりましたが、2021年4月から神戸市立医療センター中央市民病院(以下、神戸中央市民病院)で研修をさせてもらっています。田邊教授に不整脈の道へ進みたいと相談させていただき、こちらで研修させていただけることになりました。神戸中央市民病院はスタッフ11名、専攻医(後期研修医)6名の計17名で診療を行っております。スタッフの中には入局したての頃に大学病院で病棟医長としておられた岡田大司先生もいます。新入局の際には岡田先生にはよく古志野先生と一緒に叱咤、叱咤、叱咤激励していただいたのもいい思い出です。今でも岡田先生に会うと、初心を思い出し、身が引き締まる思いがします。僕の神戸中央市民病院での診療は専ら“アブレーション漬け”の日々を送っています。循環器用のカテーテル室は計3つあり、2つは虚血等(アブレーション以外)を行う部屋で、もう1つはアブレーション専用部屋です。毎日2~4件のアブレーションがあり、年間450~600件アブレーション治療を行っております。アブレーションチームはチーフの小堀先生、佐々木先生、僕の3人です(写真2)。

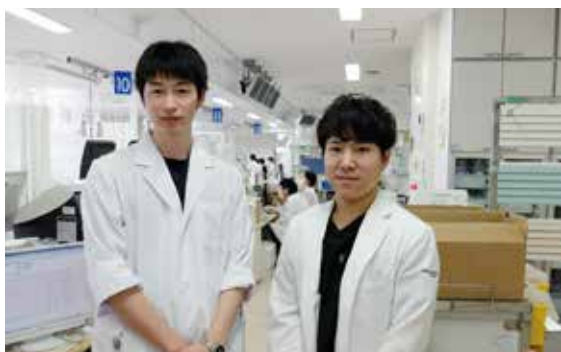


写真1：入局時、古志野先生と



写真2：左から僕、小堀先生、佐々木先生

3人で上記件数をこなしていますので、それなりに忙しい日々を送っています。小堀先生、佐々木先生はともに穏やかで面倒見がよく、人としても素晴らしい方々で、診療以外でも見習う事が多いです。アブレーションは心房細動以外の複雑な心房頻拍や心室頻拍など、めずらしい症例もたくさん経験させていただいています。研究会・学会発表に関しても、循環器学会総会・不整脈学会総会・アブレーション関連大会はもちろん、関西は不整脈関連の研究会も盛んで、この1年でたくさんの学会・研究会発表を経験させていただきました。ここからは少しマニアックな話もさせていただきます。主に心房細動アブレーションに関してもありますが、技術の進歩が著しく新しいデバイスもどんどんできています。肺静脈隔離の焼灼デバイスとしては高周波カテーテルが一般的ですが、神戸中央市民病院では冷凍バルーン（Cryoballoon）・高周波バルーン（Hotballoon）・レーザーバルーンも使用可能で、3D mapping systemもCARTO・ENSITE・RHYTHMIAのすべてが使用できます。また、最新のデバイスも国内で数番目に使用可能となります。不整脈医としては、ヨダレがでるような恵まれた環境で研修をさせていただいております。みなさんはアブレーションというと、どんなイメージをお持ちでしょうか。大学にいた頃、佐藤寛大先生に「アブレーションは長くて、暗い部屋で、心電図の音が心地よく、助手に入っていると眠くなるんだよな。」と言われていたのを覚えています。以前と比べるとアブレーションの手技時間はかなり短くなりました。心房細動に対してバルーンを用いた肺静脈隔離のみであれば60分以内、高周波カテーテルを用いたアブレーション治療でも最近ではhigh power short durationが主流となってきており、こちらも肺静脈隔離だけであれば90分以内に終了することもできるようになりました（写真3）。

また、3D navigation systemの進歩により高周波カテーテルアブレーションの際の透視時間も数分以内で収めることができます。これからアブレーションはPulsed Field Ablationやvery high power short duration（90w 3sec 通電）など、どんどん新しいデバイスがでてきます。今がアツい、日進月歩の分野になりますので、まだ進路を決めていない新入局の先生にはオススメです。



写真3：アブレーション風景

アブレーション以外についてもたくさんの勉強をさせていただいています。こちらに来てまず驚いたのが救急患者の多さです。当直中はひっきりなしに電話がかかってきます。神戸中央市民病院は断らない救急を掲げており、重症患者の搬送が多く、PCPSやIMPELLAもよく導入されます。救急疾患・重症管理なども数多く経験させていただきました。また、ストラクチャーの件数も多くあり、TAVIだけでなく、Mitra ClipやASD・PFO closureなどもされています。これらに直接携わることはありませんが、カンファレンスに参加して適応やストラテジーを聞いていると非常に勉強になります。昨年度からは左心耳閉鎖デバイスであるWATCHMANも新しく導入され、こちらはアブレーションチームで行いますので、まだ10例程度ですがセカンドに入らせていただいています。

はじめて生まれ育った島根を出て、神戸に来た当初は不安でいっぱいでした。しかし、神戸中央市民病院の先生達はみな穏やかで優しく働きやすく、また専攻医の先生達は非常にパワフルでやる気に満ちあふれており、いい刺激をもらっています。上記のように非常にいい環境で研修をさせてもらっておりますので、残りの研修生活も無駄にすることなく、将来の自分の糧にできたらと思います。このような“縁”を取り持っていただいた田邊教授には重ねて御礼申しあげます。



写真4：アブレーションチーム集合写真

論文・著書・総説 (2021 年秋号以降掲載、掲載決定分)

1. Tanabe J, Okazaki K, Endo A, Tanabe K. Left ventricular intramyocardial dissecting hematoma. CASE 2021;5:349-353
2. Sakamoto T, Sato R, Endo A, Iwashita Y, Tanabe K. Negative-pressure pulmonary edema and Takotsubo cardiomyopathy in the older adults. Cureus 2022;14 (2): e22661
3. Sakamoto T, Tanabe K. Assessment of organ congestion in patients with heart failure by ultrasonography. J Echocardiogr 2022;20:10-15
4. Endo A, Morita Y, Yasuda Y, Kawahara H, Kagawa Y, Tanabe K. Very late stent thrombosis after discontinuation of antiplatelet agents during anticoagulation therapy in a patient with peri-stent contrast staining after implantation of a second-generation drug-eluting stent. Intern Med 2022;61:1163-1167
5. Sakamoto T, Uchida K, Endo A, Yoshitomi H, Tanabe K. Gallbladder wall thickness-based assessment of organ congestion in patients with heart failure. Circ Rep 2022;4:166-172
6. Sakamoto T, Ito S, Endo A, Yoshitomi H, Tanabe K. Combinational elastography: a non-invasive method for the assessment of liver congestion in patients with heart failure. Int Heart J 2022;63:271-277
7. Morita Y, Morita J, Kondo Y, Kitai T, Fujita T, Tanabe K. Septal pacing using an inner guiding catheter without an outer sheath: a case series. Heart Rythm Case Reports 2022;8:214-216
8. Morita Y, Kashima Y, Fujita T, Tanabe K. The subintimal transcatheter withdrawal technique with sustained negative pressure: A simple and effective technique for antegrade dissection and re-entry. IHJ Cardiovascular Case Reports 2022;6:24-27
9. Fukunaga S, Ogawa N, Matsumoto A, Ito T, Tanabe K, Otani H. Administration of retinoic acid to pregnant mice increases the number of fetal mouse glomeruli. Biochem Biophys Rep. 2022;30:101245
10. Wang M, Ohara H, Egawa M, Fukunaga S, Matsuo H, Ge ZR, Nabika T. A 3-Mbp fragment on rat chromosome 1 affects susceptibility both to stroke and kidney injury under salt loading in the stroke-prone spontaneously hypertensive rat: a genetic approach using multiple congenic strains. Exp Anim. 2022 Mar 29. doi: 10.1538/expanim.21-0189
11. Shamim TA, Yamaguchi K, Yoshitomi H, Yasuda Y, Morita Y, Kawahara H, Sato H, Endo A, Tanabe K. The prognostic impact of echocardiographic indices in patients with severe aortic stenosis who underwent transcatheter aortic valve implantation. Shimane Journal of Medical Science (in press)
12. Ohte N, Ishizu T, Izumi C, Ito H, Iwanaga S, Okura H, Otsuji Y, Sakata Y, Shibata T, Shinke T, Seo Y, Daimon M, Takeuchi M, Tanabe K, Nakatani S, Nii M, Nishigami K, Hozumi T, Yasukochi S, Yamada H, Yamamoto K, Izumo M, Inoue K, Iwano H, Okada A, Kataoka A, Kaji S, Kusunose K, Goda A, Takeda Y, Tanaka H, Dohi K, Hamaguchi H, Fukuta H, Yamada S, Watanabe N, Akaishi M, Akasaka T, Kimura T, Kosuge M, Masuyama T, on behalf of the Japanese Circulation Society Joint Working Group. JCS 2021 Guideline on the Clinical Application of Echocardiography. Circ J (in press)
13. 森田祐介、田邊一明. 心膜液貯留、心タンポナーデ. 循環器疾患最新の治療2022-2023 (南江堂) P246-248、2022.1
14. 田邊淳也、田邊一明. 感染性心内膜炎. 内科学第12版 (朝倉書店). II -224-229
15. 田邊一明. 心膜疾患. 内科学第12版 (朝倉書店). II -229-233

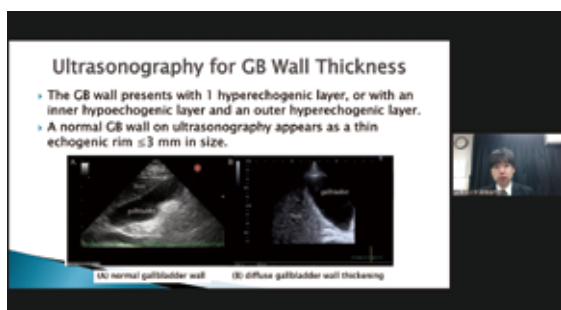
学会・研究会発表 (2021 年秋号以降)

1. Kawanishi M, Kamei F, Sonoda H, Oba M, Fukunaga S, Egawa M, Ito T. A case of difficulty in differentiating IgG4-related disease from Castleman disease. The 4th International Symposium on IgG4-Related Diseases. 2021.12.2-4
2. 江川雅博、亀井史佳、園田裕隆、大庭雅史、川西未波留、福永昇平、伊藤孝史. 十二指腸潰瘍からの出血を繰り返した慢性腎臓病患者. 第30回中国腎不全研究会学術集会. 2021.12.5
3. 川西未波留、亀井史佳、大庭雅史、園田裕隆、福永昇平、江川雅博、伊藤孝史. 「維持血液透析の見合わせに関する事前指示書」を用い、透析見合わせを行なった症例の検討. 第32回日本サイコネフロロジー学会. 2021.12.11-12
4. 江川雅博、亀井史佳、大庭雅史、園田裕隆、川西未波留、福永昇平、伊藤孝史. リンパ脈管筋腫症 (LAM) を合併した血液透析患者. 第32回日本サイコネフロロジー学会. 2021.12.11-12
5. 安田謙二、中島滋記、田邊一明. シンポジウム 3. 島根大学医学部附属病院における成人先天性心疾患診療の現状と展望. 第23回日本成人先天性心疾患学会学術集会. 2022.1.7-9、福岡
6. 田邊淳也、山口一人、遠藤昭博、吉富裕之、田邊一明. 動悸を主訴に救急外来を受診された成人Fontan術後の一例. 第23回日本成人先天性心疾患学会学術集会. 2022.1.7-9、福岡
7. 伊藤孝史. 透析施設間連携を考える～現状と課題、そして展望. 特定機能病院の立場から. 第69回山陰透析懇話会. 2022.2.20
8. 波多野由依、遠藤昭博、香川雄三、川波由佳、佐々木拓志、村上 慧、坂本考弘、安田 優、大嶋丈史、川原 洋、大内 武、山口一人、渡邊伸英、田邊一明. A case of very late stent thrombosis with persistent contrast staining during anticoagulation monotherapy after discontinuation of antiplatelet therapy. 第86回日本循環器学会学術集会. 2022.3.11-13
9. 坂本考弘、佐々木拓志、川波由佳、村上 慧、安田 優、川原 洋、大嶋丈史、香川雄三、大内 武、渡邊伸英、山口一人、吉富裕之、遠藤昭博、田邊一明. Classification based on pre-procedural echocardiography using machine learning to predict severity of aortic regurgitation after transcatheter aortic valve implantation. 第86回日本循環器学会学術集会. 2022.3.11-13
10. Kawahara H, Kawanami Y, Sasaki H, Murakami K, Yasuda Y, Sakamoto T, Oshima T, Yamaguchi K, Kagawa Y, Ouchi T, Watanabe N, Endo A, Yoshitomi H, Tanabe K. Successful transcatheter aortic valve replacement approached through a simultaneous implanted Y-graft vascular prosthesis. 第86回日本循環器学会学術集会. 2022.3.11-13
11. Endo A, Yasuda Y, Kawahara H, Kagawa Y, Sakamoto T, Ouchi T, Watanabe N, Yamaguchi K, Yoshitomi H, Tanabe K. The effectiveness of strict low-density lipoprotein cholesterol management according to risks of patient in secondary prevention. 第86回日本循環器学会学術集会. 2022.3.11-13

12. 坂本考弘、佐々木拓志、川波由佳、村上 慧、川原 洋、大嶋丈史、香川雄三、大内 武、渡邊伸英、山口一人、吉富裕之、遠藤昭博、田邊一明. Lung ultrasound for assessing left ventricular diastolic function. 第86回日本循環器学会学術集会. 2022.3.11-13
13. 山本陵平、伊藤孝史、長澤康行、松井浩輔、江川雅博、名波正義、猪阪善隆、岡田浩一. 慢性腎臓病患者における有酸素運動と心腎アウトカム. 第12回日本腎臓リハビリテーション学会. 2022.3.26-27、岡山
14. 坂本考弘. 拡張機能評価は臨床ルーチンで行うべきである. 若手心エコーフェローの会. 日本心エコー図学会第33回学術集会. 2022.4.8-10、米子
15. 遠藤昭博、安田 優、川原 洋、坂本考弘、大嶋丈史、吉富裕之、田邊一明. TAVIにおける経食道心エコーの有用性－経食道心エコーだからわかること、経食道心エコーでもわからないこと. 日本心エコー図学会第33回学術集会. 2022.4.8-10、米子
16. 田邊淳也、山口一人、坂本考弘、安田 優、岡崎浩一、遠藤昭博、吉富裕之、田邊一明. 無症候性免疫チェックポイント阻害薬関連心筋炎の2例. 日本心エコー図学会第33回学術集会. 2022.4.8-10、米子
17. 伊藤孝史、柏原直樹. 教育講演「慢性腎臓病（CKD）対策における地域連携・多職種連携」. 第119回日本内科学会講演会. 2022.4.15-17、京都
18. 佐々木拓志、香川雄三、安田 優、坂本考弘、川原 洋、大嶋丈史、大内 武、渡邊伸英、遠藤昭博、田邊一明. 急性心筋梗塞後乳頭筋断裂に対し、経皮的冠状動脈形成術後に僧帽弁置換術を行った1例. 第126回日本内科学会中国地方会. 2022.5.8
19. 田邊一明. 心エコー図をどう診療に活かすのか. 第63回岐阜ドプラ・心エコー研究会. 2022.5.14
20. 坂本考弘、内田利彦、川波由佳、佐々木拓志、村上 慧、安田 優、川原 洋、大嶋丈史、香川雄三、大内 武、渡邊伸英、山口一人、吉富裕之、遠藤昭博、田邊一明. 心不全患者における胆嚢壁厚計測に基づいた臓器うっ血評価法. 第120回日本循環器学会中国四国合同地方会. 2022.5.28-29、広島
21. 大嶋丈史、佐々木拓志、川波由佳、村上 慧、安田 優、坂本考弘、川原 洋、香川雄三、大内 武、渡邊伸英、山口一人、遠藤昭博、吉富裕之、星 祐介、小坂田皓平、大家理伸、久保俊介、田邊一明. 心房中隔欠損症に伴う僧帽弁閉鎖不全症に対して MitraClipを施行した一例. 第120回日本循環器学会中国四国合同地方会. 2022.5.28-29、広島
22. 川波由佳、坂本考弘、安田 優、川原 洋、大嶋丈史、香川雄三、大内 武、渡邊伸英、遠藤昭博、吉富裕之、田邊一明. ダサチニブによる可逆性の左室収縮能低下を来した一例. 第120回日本循環器学会中国四国合同地方会. 2022.5.28-29、広島
23. 村上 慧、坂本考弘、佐々木拓志、川波由佳、安田 優、大嶋丈史、川原 洋、香川雄三、大内 武、渡邊伸英、遠藤昭博、吉富裕之、田邊一明. 弁輪部膿瘍を合併し、高度な弁破壊と急性心不全を呈した感染性心内膜炎の一例. 第120回日本循環器学会中国四国合同地方会. 2022.5.28-29、広島



学位が授与されました



坂本考弘先生、Towfiq Ahmed Shamim先生の学位審査がそれぞれオンラインで行われ、学位（医学博士）が授与されました。

坂本先生は心不全の臓器うっ血をエコーで評価することに取り組み、肝臓、胆のう、肺うっ血の評価をそれぞれ論文化されていますが、学位論文は“Gallbladder wall thickness-based assessment of organ congestion in patients with heart failure.”でCirc Rep 2022;4:166-172に掲載されました。心不全によるうっ血で胆のう壁が厚くなるということを初めて報告されました。慢性心不全の管理で、残存する臓器うっ血は予後悪化の指標と考えられ、今まさに世界が注目している領域です。

Shamim先生はバングラディシュからの留学生で、心エコーや心電図を熱心に勉強されました。学位論文は

“The prognostic impact of echocardiographic indices in patients with severe aortic stenosis who underwent transcatheter aortic valve implantation.”でShimane Journal of Medical Scienceに掲載予定です。大動脈弁狭窄症に対して大学病院でTAVIを施行した症例のTAVI後の心血管イベントを予測する心エコー指標について検討してもらいました。大学の治療成績が良好で、短期のイベント発生が少ない状況ですが、心不全で再入院された3例はいずれも術前の左室内腔が小さい求心性肥大の症例であることがわかりました。今後の管理に活かせる貴重な報告となりました。Shamim先生はバングラディシュに帰国され、自国で循環器疾患の予防医療に関わりたいとのことでした。お2人の先生方、おめでとうございます。今後のご活躍をお祈りします。



第32回日本サイコネフロロジー学会学術集会・総会 開催報告



第32回日本サイコネフロロジー学会学術集会・総会 大会長
島根大学医学部附属病院 腎臓内科 診療科長 診療教授
伊藤 孝史

えて〜」というタイトルでご講演いただきました。聞いて
いるうちに涙が出てきましたし、自分もそのような最期を
迎えたい、患者さんにも幸せな最期を迎えてほしいという
思いを強くしました。特別講演3では、エスポアル出雲
クリニックの高橋幸男先生に「透析医療と認知症」という
タイトルでご講演いただきました。透析患者さんの認知症
は大きな課題であり、日常診療での対応方法など、日常診
療にすぐに役立つお話をいただきました。特別セッション
「春木先生を偲ぶ会」では、春木賞受賞者である平賀聖
悟先生、竹澤真吾先生、穴戸洋先生、そして理事長の西村
勝治先生に春木先生とのエピソードをお話いただき、在
りし日の春木先生のお人柄を偲びました。そのほか、教育
講演4講演、シンポジウム2セッション、特別企画1セッ
ション、ワークショップ1セッション、臨床討論3セッ
ション、ランチョンセミナー4セッション、モーニングセ
ミナー1セッション、スイーツセミナー1セッション、野
原記念賞候補演題10演題、一般演題36演題と多くの演題を
いただき、盛会裡に学会を終えることができました。参加
者は400名と例年よりも少なかったのですが、多くの参加
者の方々から「原点回帰ができた」、「勉強になった」とい
う言葉をいただくことができ、ホッとしております。

学会を主催させていただくにあたり、日本サイコネフロ
ロジー学会の役員、会員の先生方のご支援はもとより、島
根大学医学部附属病院腎臓内科の皆さん、コンベンション
の株式会社メディカル東友の皆さん、映像関係のヒビノ株
式会社の皆さんに大変お世話になり、本当にありがとうご
ざいました。またご支援いただいた島根県透析医会、製薬
企業各社の皆様に心より御礼申し上げます。

本当にありがとうございました。

令和3年12月10～11日、完全web配信で第32回日本
サイコネフロロジー学会学術集会・総会 (<https://www.m-toyou.com/jspn32/index.html>) を主催させていただきました。本学会の前身である日本サイコネフロロジー研究会を創設されたお1人である春木繁一先生（島根県出身、島根大学医学部精神医学講座の非常勤講師も務められました）が1995年に第6回大会を開催され4半世紀、日本サイコネフロロジー学会がまた島根に戻ってくるということで、大会のテーマを「原点回帰」としました。「原点」というのは、第一に第32回大会は春木先生の原点である島根で開催するという事です。神在月に出雲大社に八百万の神様が集まれるように、皆さんにも4半世紀ぶりに島根に戻ってきて頂きたいということです。第二に「サイコ・ネフロロジー カンファレンス」が開催された1990年当時のことをもう一度思い出し、サイコネフロロジーの進歩を振り返りたいということです。そして、第三に春木先生がおっしゃっていたように透析患者のおかれている「失ったままである」という原点に戻り、これからのサイコネフロロジーを考えていきたいということです。本来であれば、大会テーマのように、原点である島根県で現地開催をさせていただきたかったのですが、新型コロナウイルス感染症拡大のために、完全web配信となってしまいました。山陰に、島根に来ることを楽しみにしてくださっていたみなさんに申し訳ない気持ちでいっぱいです。

特別講演1では、福島県立医科大学医学部疫学講座の大平哲也教授に「笑いと心身医療」というタイトルでご講演いただきました。先生の笑いに関する疫学研究でたくさん笑わせていただきました。特別講演2では、山口県大島のおげんきクリニックの岡原仁志先生に「最期を楽しみ〜ハグとユーモアを添





学会報告

田邊 一明

第86回日本循環器学会学術集会



2022年3月11日～13日に第86回日本循環器学会学術集会がWEBで開催されました。私は佐藤寛大先生が留学中のMinnesota Heart Institute・Paul Sorajja先生とMitral valve edge-to-edge repairがテーマのSpecial Sessionの座長を務めました。1年前から企画し、Sorajja先生、佐藤先生には開催地・神戸に来ていただくはずでしたが残念でした。オンライン上でしたが佐藤先生とは1年5か月ぶりの対面で、佐藤先生は変わりなく元気そうでした。佐藤先生が発表された仕事はMitraclipの成績、予後に影響する指標を提案されたもので、その後Circulation: Cardiovascular Interventionsにacceptされています。1人で頑張った成果が出てよかったです。残りの時間も楽しんでください。

第33回日本心エコー図学会学術集会



2022年4月8日～10日米子市で開催されました。4月に入ってコロナ感染症は小康状態となり、現地（一部ハイブリッド）開催となりました。オンラインでは顔を合わせていた先生方とも再会を祝し、また貴重な意見交換ができました。オンラインなら空いた時間は接続を切って自分の世界に戻りますが、現地では仕方ないので会場に座り、それがまた思いがけず勉強になる発表に出会えたり、発表の合間に「ここだけの話」ができたり、充実度が違います。オンラインの良さもありますが、現地へ行っておそ得ることのできる情報もありました。早く、夜の部も戻ってくることを願っています。



同門会長挨拶

佐藤内科クリニック
佐藤 秀俊



爽やかな青空が広がる立夏の候、同門会員、そして医局員の皆様には益々御清栄の事とお慶び申し上げます。新型コロナウイルス感染症がなかなか収束せず、皆様には変わらず毎日ストレスが多いなかでの診療に当たられ、また発熱外来やワクチン接種などご苦労が多々あるものとお察しいたします。どうかご自愛くださいますようお願い申し上げます。

例年5月に開催しております春の田邊杯ゴルフコンペ（医局コンペ）は、昨年は第4波感染拡大の状況を鑑みて中止という苦渋の決断をいたしました。今回は田邊教授

のご同意を得て、ゴルフ幹事の井上副会長のご尽力により無事開催することが出来ました。今後も同門会と医局の交流の場として開催できることを願っております。

今年度も新しく循環器内科2名、腎臓内科1名の新入局員を迎える事ができました。循環器内科の河野先生は同門会員の波多野先生のご令嬢であり、父娘で医局、同門会の発展にご協力いただけますことを大変嬉しく存じます。今のところまだ研究会など皆様が顔を合わせる機会はありませんが、

せんが、今秋の11月12日に予定しております同門会総会では医局の先生方と我々同門会員が直接お話しする会合になりますよう鋭意準備を進めていく所存です。詳細が決まり次第ご案内いたしますのでよろしくお願いいたします。これからも更に内科学講座内科学第四が発展することを願ひ、同門会として全力で応援させていただきます。

今後とも私と井上副会長に皆様のお力添えをいただきますようどうかよろしくお願い申し上げます。

第23回第4内科田邊杯ゴルフコンペ結果報告 同門会ゴルフ幹事 井上 慎一



ゴルフデビューを見守る
同門会長

令和4年5月15日、第25回田邊杯ゴルフコンペがいずも大社カントリークラブで3年ぶりに開催されました。田邊一明教授をはじめ先生方に直接お会いする機会となり、楽しい賑やかな1日を過ごさせて頂きました。ご参加頂き心から感謝申し上げます。当日は天気には恵まれましたが、3年ぶりのゴルフ…スコアメイクには大変苦労しました。そんな中、後藤泰利先生が実力を発揮され優勝、僅差で同門会長の佐藤秀俊先生が準優勝となりました。佐藤秀俊先生も久ぶりのゴルフにも関わらず見事結果を出されました。ドラコンは後藤泰利先生、川波由佳先生、ニアピンは波多野淳先生、山口直人先生、古志野海人先生、井上が獲得しました。山崎誠太先生、川波由佳先生、河野由依先生は初めての参加です。目の前のボールと一日中格闘されゴルフの全ての魅力を体感出来なかったかもしれませんが、ゴルフは続ける価値のあるスポーツです。ぜひこれからも頑張ってください。次回は令和4年11月13日(日)、同門会総会翌日に開催予定です。多くの先生方のご参加をお待ちしております。

順位	競技者名	out	in	GROSS	HDCP	NET
優 勝	後藤 泰利	47	47	94	16.8	77.2
準優勝	佐藤 秀俊	58	58	116	36.0	80.0
3 位	山口 直人	60	54	114	33.6	80.4
4 位	井上 慎一	43	46	89	8.4	80.6
5 位	田邊 一明	61	59	120	36.0	84.0
6 位	波多野 淳	61	60	121	36.0	85.0
7 位	古志野海人	56	68	124	34.8	89.2
8 位	渡邊 伸英	65	63	128	36.0	92.0
9 位	河野 由依	67	69	136	36.0	100.0
10位	川波 由佳	87	81	168	36.0	132.0
11位	山崎 誠太	87	93	180	36.0	144.0



道

✿ 編集後記 ✿

この春、日本心エコー図学会より教育功績賞をいただきました。自分を育てていただいた学会から自分の仕事である教育で評価していただいたことは大変光栄なことです。1989年に心エコー図研究会が始まり、Mayo Clinicが主催したEcho Hawaiiを日本でもと1992年に第1回夏期講習会が開催され、1994年には日本心エコー図学会が立ち上がりました。学術集会、講習会に出席する中で、いつかは自分も特別講演や講習会の講師になりたいと思っていました。Mayo Clinic留学中は、世界的なスーパースターの講義に触れる機会となり、講義のビデオを図書館で借りてはスライドやトークを必死でコピーしました。やがて講習会の講師依頼が届いた時にはオールスターメンバーに選ばれたような高揚感がありました。かつての指導医から、何でも最初から創造はできない。模倣・蓄積・創造の順番が大事だと言われました。多くの師を真似て、それを蓄積し、自分なりのスタイルを創ってきたように思います。形には残らない「教育」を魂のリレーとして引き継いでいきたいと思います。(田邊)



島根大学医学部内科学講座内科学第四

循環器内科・腎臓内科

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1

電話 (0853) 20-2206 (医局資料室ダイヤルイン)

Fax (0853) 20-2201 (医局資料室)

循環器内科ホットライン 070-5672-8109

URL: https://www.med.shimane-u.ac.jp/internal_med4/index.html